

令和5年度 第2回 南さつま商工会議所 経営発達支援計画評価委員会  
集計結果について

5. よくできている 4. できている 3. ふつう 2. もう少し 1. できていない

項目	評価 (平均)	コメント欄					
I. 経営発達支援事業の内容							
1. 地域の経済動向の調査に関する こと	1	1	1	1	1	1	1
		<p>・経済動向調査を平成31年4月以降、まだ一度も実施していないため。</p> <p>・コロナ禍で調査の実施が難しかったと思うが、5類へ移行したこともあり、早急な実施を望む。</p> <p>・調査が実施されなかったことは事実であるが、コロナ前・中の調査が今後の施策に役立つかどうかは疑問である。今後を見据えた調査をしっかりと実施していただきたい。</p> <p>・今後において、株式会社九州経済研究所への業務委託による調査の実施を検討することの説明があったので、引き続きの検討を望む。特に定量的な分析結果等については公的な支援を要望する際の貴重な材料にもなると考える。</p>					
2. 経営状況の分析 に関する こと	4	4	4	4	4	4	4
		<p>・ホームページやフェイスブック、会報等によるセミナーの開催や制度説明など充実している。</p> <p>・コロナ禍でありながら、時宜に適した内容のセミナーが実施されている。</p> <p>・①ビジネスに関する講演会、②税務に関する講習会、③コロナ禍でのネットを利用した販売方法の講習会等、専門家の方々の講習会等を17回実施し、経営状況の分析を行ったことは、今後の企業経営に役立ったと思う。</p> <p>・コロナ禍でも個別相談を中心に開催できている。</p> <p>・定期的に開催されており、取り組みは良好であるが、参加者増加策を検討すると、より良い取り組みになるのでは。</p> <p>・多種多様な講師を派遣しており、内容も充実していると思うが、会員の性質に合わせた内容を協働で掘り起こす努力を望む。取引の安全を求めるための消費者志向経営や、コロナ禍の教訓から行政手続に関する知識の習得も必要と考える。</p>					

<p>3. 事業計画策定支援に関すること</p>	<p>4.3</p>	<table border="1" data-bbox="555 114 1422 170"> <tr> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>・各種補助金や創業資金申請・相談に合わせて事業計画策定の支援が実施されている。</p> <p>・コロナ対策のための補助金申請が多かったため、それに伴う事業計画策定支援が行われている。</p> <p>・小規模事業者の持続化補助金（コロナ対応含）申請 10 件対応し、申請は 10 件とも満額で採択された。 創業に伴う支援についても 7 件の案件すべてについて融資が出来ている。</p> <p>このような結果から、事業者からの①事業計画書の作成、②必要な資金の総額等、適切な指導を実施されたと思う。</p> <p>・コロナ禍でも創業を中心に諸補助金申請に対応している。</p> <p>・コロナで危機にさらされた事業者に対する支援の役割を果たしたと評価できる。</p> <p>・コロナ禍という混乱期にあっては国や県、南さつま市が立て続けに公的支援を実施する中、相談の対応に始まり、適切な支援制度への案内など、会員に寄り添った丁寧な支援が実施されていた。</p>	4	5	5	3	4	5
4	5	5	3	4	5			
<p>4. 事業計画策定後の実施支援に関すること</p>	<p>3.5</p>	<table border="1" data-bbox="555 1003 1422 1059"> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>・経営指導員による支援体制が整っている。</p> <p>・事業計画後の事業状況報告が、もう少し具体的な数字の報告でないと読み取れない。例えば巡回指導数や企業側からの質問等が記入してあれば、支援の状況内容が理解できるのではないか。</p> <p>・上記 3 のとおり、取り組みに関しては十分な評価に値するが、一方で結果として会員が減少している。困ったときに相談できる駆け込み寺のような存在へと価値を高めるべく、経営指導体制の拡充を含めたさらなる経営指導の充実を要望する。</p>	4	3	3	3	4	4
4	3	3	3	4	4			
<p>5. 需要動向調査に関すること</p>	<p>3</p>	<table border="1" data-bbox="555 1480 1422 1536"> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>・アンケートを実施した場合は、実施結果について会員事業所に対して結果報告をお願いしたい。また、その結果に対して、他のデータや業界誌等の比較をして、情報提供等をお願いしたい。</p> <p>・調査手法を、より多様化させ、結果を会員に還元する等検討いただきたい。</p> <p>・上記 2 と関連するが、会員の要望や社会情勢を鑑みたセミナー等の実施と、その結果（実績）の公表を望む。</p>	3	3	2	3	3	4
3	3	2	3	3	4			

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること		4	4	5	2	4	3
	3.7	<p>・ふるさと産品コンクールを定期で実施し、新たな販路開拓へつなげる取り組みが実施されている。</p> <p>・南さつま市ふるさと産品コンクールの実施や、東京でのイベントへの出店等、新商品の開発や新たな販路拡大へとつながる事業を実施するなど、評価できる。</p> <p>・南さつま市ふるさと産品コンクールについては、平成元年より実施しているが、令和元年より専門家の意見等を取り入れ、「リニューアル」している。特に、入賞商品について、南さつま市ふるさと納税の返礼品として取り入れている点大きい。</p> <p>県外の商談会等にも積極的に参加して販路開拓に取り組んでいる。</p> <p>・コンクールの出品事業者の増を期待したい。</p> <p>・積極的な会員事業者が活動して賛同し盛り上げてくれている。もっと多くの会員を巻き込んでほしい。</p> <p>・ふるさと産品コンクールについては市民へのPRや販路拡大に向けた強化を目的とし、販路を広げたい（広げることができる）事業者を対象とした事業内容への転換を望む。対象者の開発期間を十分に確保するために隔年での開催も視野に検討いただきたい。</p>					

## II. 地域経済の活性化に資する取組

地域経済の活性化に資する取組		4	5	5	4	5	5
	4.7	<p>・コロナ禍における国・県・市が実施する各種給付金事業に対する協力・支援が十分に行われている。</p> <p>・国や南さつま市がコロナ支援のための給付金や支援金、キャンペーン等の窓口として対応し、大いに寄与している。</p> <p>・この期間は、コロナ禍となり国・県・市が行う支援金や給付金等について、商工会議所が窓口となり全職員で事業者の説明や申請業務にあたった。この点は商工会議所が地域経済の活性化に役立ったと思う。</p> <p>・国や県、南さつま市などの新型コロナに関わる給付金などの事業によく対応できている。</p> <p>・給付金・支援金等の支援活動において、中心的役割を果たしたことは高く評価できる。</p> <p>・上記I-3のとおり、コロナ禍という混乱期にあっては国や県、南さつま市が実施した公的支援に対して、その協力機関として参画していた。また、南さつま市の経済対策においてはその制度設計の段階から経営指導員が協議に参加していた。</p>					

Ⅲ経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

<p>1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること</p>	<p>3.8</p>	<p>4</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内商工会・商工会議所をはじめ、県内の各商工会議所とも情報交換を実施している。</li> <li>・南薩法人会や他の地区の商工会議所・商工会の職員と情報交換を行うとともに、事務担当者会議の際にも情報交換を行っている。</li> <li>・県の産業支援センターの南さつま市での相談日を設けるなど連携を取れる体制が出来ている。</li> <li>・他の支援機関等との連携を実施している。アフターコロナにおいては融資の据置終了（元金返済）などの経営課題が表面化し、事業承継が社会的な問題になることも予想される。事業者の減少は地域にとっても損失となる（店があり人が通うことで治安の維持にもつながる）ため、様々な支援機関が連動することが求められる。あと数年で廃業を検討している事業者に対して事業承継のメリット（資産価値を高めて譲渡することで老後の資金にもなる等）を周知することが重要となる。先進事例に関する情報の収集と共有を図ることで、終える事業者と始める事業者のマッチングからクローズ支援並びにスタートアップ支援の体制が構築できればと考える。</li> </ul>
<p>2. 経営指導員等の資質向上等に関すること</p>	<p>3.8</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>5</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営指導員の研修や、県産業支援センター主催の会議にも出席し、職員の資質向上に努めている。新人2名（男性）が入職し、成長してきていると思う。</li> <li>・経営指導員の年齢構成などにおいても持続可能な支援体制が構築できているものとする。様々なセミナーに参加することによって知識の習得を図ることは当然ながら、横断的な連携に向けた支援機関間の交流にも努めていると評価する。</li> </ul>
<p>3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること</p>	<p>2</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で仕方ないと思慮するところもあるが、他の会議所等が実施していることを鑑みると実施時期が遅い。</li> <li>・コロナ禍で、事業を評価する評価委員会も開催されていない。</li> <li>・コロナ対応が最優先であった、ここ数年において、本取組が劣後したことはやむを得ないと考える。</li> <li>・コロナ禍において実施できなかったことは不可抗力の側面もあるので、今後は年1回の評価実施に基づく事業の見直し等を行うことで、より良い支援機関としての発展を期待する。 南さつま市で事業を始めるという意思決定にあっては、地域の経済情勢も大きな判断材料になるが、その地域の温度（温かみ）がさらに重要となる。補助金等の支援だけでなく、上記Ⅰ-2に関連して、様々な分野の講師を揃えた「創業塾」を開設して、スタートアップ支援の体制が構築できればと考える。</li> </ul>